

2023 年度第 2 回浜松市 “やらまいか” 総合戦略推進会議
議事録

1 日 時 2024 年 2 月 16 日（金）13:30～15:30

2 場 所 本館 5 階 庁議室

3 出席者 委員 12 名

（石川雅洋委員、秋元健一委員、笹原恵委員、小林淑恵委員（オンライン）、
名倉秀樹委員、鈴木真由美委員、藤崎淳委員、大場司委員、伊藤充宏委
員、山村隆浩委員、鎌田裕子委員及び浜松市長（座長）

事務局 3 名

（企画調整部長、企画課長、企画課長補佐）

4 報道関係者 3 名

5 概 要 以下のとおり

1 開会

（事務局による司会進行）

委員自己紹介

（山村委員）

静岡県社会保険労務士会浜松支部長の山村と申します。よろしくお願ひします。
前回は研修会と重なってしまいましたので、今回が初めてとなります。

社会保険労務士の仕事と申しますと、年金相談や一部労働相談など、他の士業に
比べまして認知度があまり高くありません。

ちょうど 1 カ月後の 3 月 16 日に中田島砂丘で、社会貢献も兼ねて清掃活動を行
いますので、中日新聞さんや静岡新聞さんに、ぜひ取材をお願いしたいと思います
ので、ぜひよろしくお願ひいたします。

私は、地元の浜松の高校を卒業し、大学は東京へ 4 年間行っておりました。その
後リターンして静岡の企業に就職しましたが退職し、社会保険労務士の事務所を
開業して 18 年目になります。

当会議に出席するにあたっての抱負になりますけれども、これだけのそうそうた
るメンバーがそろっておりますので、気後れしている部分もありますが、建設的
な提言をしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

市長あいさつ

本日も大変皆さんお忙しい中を、この会議にお集まりいただきまして、誠にあり
がとうございます。また、日頃から浜松の地方創生にご協力をいただいております
ことを、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。

今回の会議では、前回もご説明いたしました、次の総合戦略の策定に向けて、浜松で今起こっております人口減少を状況の分析という観点から、政令指定都市 20 市の現状を比較するデータを取りまとめました。また、「浜松や出身地に戻って生活がしたいかどうか」というインタビューも実施をいたしましたので、その状況についてもご報告をさせていただきます。

また、浜松市の最上位計画の総合計画の中で、ウェルビーイング (well-being) という視点を取り入れた市民意識調査 (アンケート) を実施しましたので、併せて報告をさせていただきます。こういった人口減少に関するデータ・分析・情報をベースといたしまして、本日は浜松の人口減少における最大の課題という点での少子化、そしてもう 1 つが若い世代の流出、この 2 つのテーマについて、皆さまに意見交換を行っていただくことで考えているところでございます。本日も皆さまからいただいた意見を踏まえて、今後の総合戦略の骨子、そして具体的な方向性、こういったものも検討させていただきたいと思っております。

いずれにしましても、この人口減少の状況を 1 日も早く脱却・転換をして、元気なまち浜松を実現するために何をすべきか、そういった観点から、委員の皆さまには本日も活発な議論をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

2 市民意識調査 (アンケート) の中間報告について

(事務局から資料に基づき説明)

◆資料 1 : 市民意識調査 (アンケート) の中間報告について

(大場委員)

【分野に関する現在と 10 年後の重要度の比較】について、「産業・経済」が一番上にあって「子育て・教育」、「安全・安心・快適」と続いていますが、並べ方は何か工夫や配慮されたことはありますか。

(事務局 (企画課長))

並べ方につきましては、現状は市の中での順序で並べており、特段何かを配慮してというようなものではございません。

(大場委員)

先に来る方にマルがつきやすいといったことがおそらくあるのではないかと思います。ですので、評価する段階では加味しているのですか。

(事務局 (企画課長))

現時点の評価は単純集計結果の公表になっておりますので、今後そういったことも参考に研究をしてみたいと思っております。

(名倉委員)

このアンケートの質問内容や指標の数字の設定は、浜松市独自の設定という理解でよろしいですか。例えば平均 6.4、6.1 が、5 より良いというイメージはあるのですが、同じ質問を他の地域でやった場合の比較ができるのでしょうか。

(事務局 (企画課長))

こちらのウェルビーイングの調査に関しましては、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートという団体が全国の自治体を評価しています。自治体でアンケートをとって、横並びで比較できるような形にしているものもございまして、そちらはその団体のホームページで公表されており、浜松市の情報も入っております。

今回の私どものアンケートにつきましては、スマートシティ・インスティテュートの指標や、他の自治体の満足度、幸福度のアンケートを指標として活用している自治体がございますので、そういった指標も参考に、独自に設定したものでございます。

(鎌田委員)

これは他の市と比較検討ができるデータに使用できますでしょうか。

(事務局 (企画課長))

今回のアンケート結果のすべての項目が、他の自治体と比較できるというわけにはいきませんが、比較ができる項目もあると思っております。

今回このアンケートを実施した目的は、浜松市がこういった政策をやっていくのがいいのかを、今後検討していく材料としていただいたものになります。他都市との比較というものは一義的な目的とはしていないものになりますので、すべての項目で横並びで比較できるような調査をしているものではございません。

(伊藤委員)

区ごとに集計はできますか。

(事務局 (企画課長))

区ごとの集計もできます。今回は単純集計のご報告ですが、属性ごとのクロス集計等をやっておりますので、改めてお示しすることは可能です。

(伊藤委員)

傾向として、市全体で同じような傾向なのか、あるいは区によって全然違うのかということが、今後分かるということでもよろしいですか。

(事務局 (企画課長))

はい。

(笹原委員)

非常に興味深い結果だと思います。この種の調査としては、有効回収率 52.8% というのは高い方だと思うので、データの信頼性もあると思います。

質問文等も、今回は分野ごとの集計になっていきますけれども、例えば「あなたは

どうですか」と聞いているものと、「あなたの地域ではどうですか」と聞いているものと、「浜松市について」聞いているものといくつかあるので、クロス集計の際にも、できれば「あなたがどう感じているのか」と「あなたの地域についての評価」と「浜松市についての評価」というのは分けていただいて分析していただくと、市民自身の実感とその地域についての感想であるとか、あるいは浜松市に対しての評価ということで、少しくっきり出るような気がするので、そういった集計をまたお聞かせいただけると幸いです。

(事務局 (企画課長))

承知しました。

3 人口減少の状況について

(事務局から資料に基づき説明)

- ◆資料 2-1：人口減少の状況について
- ◆資料 2-2：出身地に対する意識についてのインタビュー
- ◆資料 2-3：政令指定都市比較による人口減少の現状

(藤崎委員)

インタビューと人口減少の現状というのを比べてみると、浜松で就職すると考えた時に、自分のやりたいものがないという意見があります。浜松はものづくりのまちですので、なかなかまだ今の大学生が就職したいと考える職種とは違っているのかなという実感があります。

そういった中で、市としても、もっと小さい年齢からものづくりというのを体験して、ものづくりって面白いと感じてもらう取組をやっていただいていると思うので、今のデータは確かにこうかもしれないけれども、もう少し若い世代はどうなっていくのかというのも求めていく必要があります。すぐにやる対策と、これからやっていくというのも必要であると、データを見て感じました。

(事務局 (企画課長))

長期的な視点と短期的な視点と併せて検証していくことが必要だと思っておりますので、ご意見のとおり検討していきたいと考えております。

(大場委員)

出身地に対する意識についてのインタビューは、今回初めて実施したのですか。

(事務局 (企画調整部長))

今回が初めてです。

(大場委員)

その狙いとしていたものは何でしょうか。先ほどこれはどれぐらいの評価をしていいのかというお話がありましたけれども、市の狙いとしては狙ったところに、

聞きたいところをきちんと聞いているのでしょうか。

(事務局 (企画課長))

浜松出身で東京等に出られた方が、何で戻って来ていないのかというところが、やはり一番確認をしたかったところになります。声を聞けたというところに関しては、今後に活かせる部分があるのではないかと考えておきまして、割合がどのぐらいのパーセンテージでとかいうところに関しては、データの信頼性を確認しているところがございます。

(事務局 (企画調整部長))

あまり具体的な意見というのはこれまで聞いておりませんでしたので、その中でこういった具体的な皆さんの思いというのが、言葉で表されたというところでは、大きい意味はあったのかと考えております。

(大場委員)

東京圏に出ている方の話が、もっと聞ければよかったなという感じはします。

(鈴木真由美委員)

浜松いわた信用金庫ですので、私も隣の市のこういった会議にも出させていたでいるのですが、浜松市の資料を今日午前中来る前に目を通してきて、すごくレベルが高くて、すごくしっかりまとめてあるなという、すごいなと思いました。それとこれを見て、自分もそうですけど、この浜松というのはとても暖かいし、東京・大阪にも1時間半ぐらいで行けますし、すごくいい所だと思います。よくお客様が私を見て、あなたは本当にお日様のある所で、いつもケラケラ笑いながら蹴鞠(けまり)をしているタイプだから、本当にうらやましいとか言われるのですけれど、いい意味であまり必死感というか危機感があまりない中で、こうやって市もすごく力を入れているので、自分なりにと思って少し考えました。流入を促進して、やはり浜松は工業団地の造成とか誘致促進、そういったものの補助金など、製造業の誘致には本当に熱心だと思いますし、成果もしっかり上げていると思います。しかし、都会に出て高い教育を受けた女性たちは、やはり製造業で働くためにリターンをするのかなと考えたときに、女性が働きたいような産業の誘致、そういったものはどうなのかと思いました。

どういうものが女性が働きたい仕事なのかと考えたときに、コールセンターが沖縄とかにもあるので、女性ができるような仕事はそういうものかなと思ったりしたので、あまり魅力もないのかと感じました。

結果には結びつかないですけど、女性の受け皿となる職場については、非製造業の誘致をするより、他の政令都市と比較して、効果を上げている都市の取り組みを参考にし、もっと深掘りしたいと思いました。

流出抑制について、流出の機会が多いのは大学のときであると思いました。今回、常葉大学が駅南に来ることはすごくいい事ですし、今日一緒に働いてきた職場の

女性も、文化芸術大学出身の職員で仕事もとてもできます。金融機関の仕事もできるのに、文化芸術大学出身だとふと思い、静岡文化芸術大学さんに経済学部や商学部などを入れたら、もっと学生が来るのかと思いました。

それと今日「静岡新聞」に、就活ケーキバイキングというのが載っていましたが、就活もこうやって、申込みをするとスターバックスコーヒーのカードがもらえるとか、すごくあっせんしていて時代が変わったというのをすごく感じました。また、少子化のところで、婚姻数を増やさないといけないと感じます。浜松市は財政が豊かということをよく耳にするのですが、そう思って婚姻するのにネットのアプリなどで、浜松市も必ず何かやっていると思って見ましたら、「ハッピープロジェクト」というのがありました。

当金庫もコロナ禍前までは婚活パーティーなどをフルーツパークなどでやっておりましたが、女性の気持ちとしては、婚活パーティー自体のイメージも良くなく、人気なくて人も集まらなかったのも、財政豊かな浜松市なので、こういったのをホテルのランチビュッフェとか、そういった所でお金をかけて本当に行きたくなるような婚活パーティーみたいのをやってもいいのかなと思いました。

もう一つ、JRグループでシニア向けのジパング倶楽部というものがあり、新幹線などの切符をお得に購入できるというものがあります。東京の大学に行ってしまった方もそれは仕方ないと受け止めて、Uターン就職をして戻って来てくれて、こちらで結婚とかそういうことも考えてくれるような人とか、大学時代の友達が東京にいたので、新幹線代がかかるという声も聞くので、そういう人たちには新幹線代の補助金ではないですけど、会いに行くときに安くするとか、そういったことをしてあげると良いのではと思いました。

あと、静岡のイメージをよくするということで、自分も研修とかでいろいろ行くと、リニアの静岡という感じで、あまり静岡のイメージがよくないのかなと、最近ちょっと外へ出たときに感じたりします。

(事務局 (企画課長))

今いただいたように先進の自治体ですとか、そういった所がどういうことをやっているのか、どういった効果が出ているのかも考えながら、次期の総合戦略の中で政策事業を検討していくということになりますので、今いただいた意見も含めまして、今後検討をしていきたいと考えております。

(笹原委員)

大変興味深い報告ありがとうございます。まず出身地に対する意識についてのインタビューの方ですけれども、さっきデータの信頼性という話がありましたけど、もともとのところは基本的に、住民基本台帳からのサンプリングなので、そのサンプリングの点から中立性があると思うのですけれども、こちらのデータは確かに数は多いですけれども、サンプリングの時点でどこから抽出するのかというの

が独特なので、これ自体の数値の信用性の議論というのは非常に難しいと思います。

ただ、2 ページで最初ご説明いただいたように、浜松サポーターズクラブと企業と大学を見ると、企業の数が圧倒的に回収数も多いので、今日はなるべく別々には報告していただいたと思いますが、数がサポーターズクラブは少なくなりますけれども、おそらく企業と大学とは別々に集計した方が傾向が出るのかなと思いました。

あとはいろんな方々がこの中に入っていますけれども、基本的には浜松出身で今浜松にいる人と、浜松出身で今浜松にはいない人、あるいは浜松出身ではなくて今浜松にいるというふうに、出身地か居住地のどちらかに浜松が入ってないと、あまりデータとしては意味がないので、浜松以外の出身者で浜松以外に住んでいる人は、こういうデータからは除外した方が、データとしてはシャープになるのではないかと思います。

特に後半の政令指定都市間での比較を考えると、今浜松にいないで戻って来ない人たちの分析と、昔浜松にいなかったが今は戻って来ている人たちの分析というのが、一番中核になり、その中でも特に女性の大学に入るぐらいの年代の流出が非常に高いということなので、それを考えるときに、1 つは、私たちにも関係があると思いますけど、大学の選択肢として、女子学生の進学が低いというのもありました、進学先として浜松での受け入れ先が、そんなにたぶんキャパシティとして大きくないというようなこともあると思います。もう1 つは就職をするときの就職先が、よく言われるように浜松は製造業のまちなので、そういった面を個別に分析をした方が、何が問題なのかということがシャープに出るように思いました。

また、政令指定都市間の比較のときに、35 ページの資料で浜松は未婚率が低いとあります。結婚している人が多いという説明があったのですが、違う言い方をすると、私も学生を見ていて実感するのですが、せっかく浜松で就職したのに結婚時にいなくなるというパターンが結構多くて、結婚するとき相手の方が住んでいる地域に、地元の結構いい企業に就職しているのに辞めてしまったという人たちもいるので、結婚者が多いというよりは、未婚者が住みにくいということもあり得て、もちろん結婚してもらいたいという気持ちはあるにせよ、やはり人数がある程度いないとその後の発展もないので、女性の未婚者がここで生活しやすいかどうかという観点からも分析していただくとよいかと思いました。政令指定都市としても名古屋、京都、大阪辺りの大都市と比べても、やはり方向性が違うと思います。これを見ていて熊本市が結構いいデータのようで、熊本の場合は地方の政令指定都市ですし、震災の影響もあつたとは思いますが、ケーススタディ的に浜松と比較できる所をピックアップして、何が違うのかという

ことを分析してみるといいのかなという感想を持ちました。

(事務局 (企画課長))

先日各関係部長に集まってもらって、こちらの資料の説明をしたところございまして、その際にも各部署においても、こういったデータをしっかり分析をして、次の総合戦略に向けて検討をするようにということで、市長からも指示があり、今取りかかっているところですので、インタビューにつきましても、ご意見を参考にさせていただきながら、分析を進めて行きたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

(事務局 (企画調整部長))

あわせて熊本市等、他の政令市の状況も確認しながら進めたいと思います。

(伊藤委員)

55 ページの大学生数及び人口 1 万人当たりの大学生数は政令市の中で浜松市が一番低いということですが、この大学生が少ないというのが、流出も含めていろいろな人口分析に影響しているような気がします。

これは、大学生の数が少ないのか、校数が少ないのか、それとも他地域から通っているんで住んでいる学生が少ないのか、そういう分析みたいなものはあるのでしょうか。先ほど話題となった熊本市と比較しても、熊本市よりも少ないということが何となく分かります。人口自体の多い少ないということも比率としてはあると思いますけれども。この原因が今分かっていないとすれば分析していくというような、お考えはあるのでしょうか。

(事務局 (企画課長))

大学のキャパシティについて、委員おっしゃったような視点での比較は現時点ではしていないので、今後の検討の中で考えていきます。

(伊藤委員)

少子化の中で大学の校数を増やすという時代ではないかもしれませんが、浜松市の場合、私立大学のキャンパス移転であるとか、国立大学 2 校の再編であるとかという話が、非常にホットなカタチで伝わっているものですから、このあたりに人口問題解決への重要なヒントがあるような気がいたします。

(小林委員)

大学に来る方の出身地というのは、学内についてはわれわれの大学の中でも分析されていまして、本学の場合はデザイン学部と文化政策学部と大きく 2 つに分かれています。デザイン学部の公立の大学が比較的少ないということで、デザイン学部の方は全国から来るといわれています。倍率も文化政策学部に比べてかなり高いです。

文化政策学部の方は県内が中心で、特にその中の私が所属している文化政策学科という所は 7 割が静岡県内から来る、それ以外も岐阜とか愛知など近隣から来る

というような状況になっています。

これが全国から来るようになれば、非常にいいことかなと思いますし、県外から来ている学生の声を聞きますと、浜松に来てみると非常に気候がよくて、天候もよくて、非常に住みやすい、そして適度に都会で適度に田舎、田舎の自然も豊かであるということで、非常に気に入っているというような印象がありますので、ぜひ大学を増やすというのもあると思いますけれども、大学の魅力を高めて全国から来ていただくというのも、われわれが頑張っていかなければいけないところだと思いました。

(秋元委員)

今大学のお話をされていらっしゃるんですけど、私も知人にたくさん大学でお勤めになっている方がいまして、その方たちの話から聞きますと、人口減少に伴ってだと思えますが、大学によって毎年度の新入学生が10~100人単位で減っていると聞きます。

少子化であっても、学生人口を増やしたり、人口流出を食い止めるには、現状を把握し、対策をとる必要があると思います。

まずは学生人口を増やすには、浜松にある大学の人気があるかないかという問題になってくると、学生にとって地域に魅力があるのかないのか、学生のまちとして4年間を楽しめるのか、というようなことでチョイスされていると思うのですね。ですから、先ずこれをクリアする働きかけが必要になると思います。

次に人口流出を食い止めるには、大卒・高卒の就職率を高める事が必要。実際に学生時代が学業以外でも楽しめて、自分の為になったという事になれば、大学を卒業した後に、浜松に魅力を感じ、その先はこの地域で就職したいと思える企業があればいいわけです。

しかし、今の実態で大企業や工場、商店の多くはすでに、人材不足、人手不足に苦しんでいます。

雇用するにあたって、給与・公休、食堂や休憩室の充実など福利厚生面で、すでに様々な配慮を尽くしていらっしゃいます。それでも選ばれない現実があります。今後このままの状態が増えていくことはないと感じます。

新たなアクションを開発して浜松にはこんなに魅力的な良い企業があるんだと何らかの形で気づかせる事ができれば、人口流出を止められるものと考えます。浜松がさらに突出する方法として、たとえばUSJやディズニーが浜松にあって、企業の引力みたいな、勤めたいベストいくつみたいなものを誘致する事ができれば更にのびるのではないのかなと思いました。

われわれは飲食業として考えられることもいくつかあるなということも思ったと同時に、根本的な部分において、人口減少の中で人を集めるために何をすべきなのかというところの論点は、もう少し煮詰めていきたいと思います。

市長も、まさにUターンの方でいらっしゃいます。都会で働いていらっしゃって、魅力ある就職先で働いていたのを、何で浜松に帰ってこられたのだろうというところは今回の論点の真骨頂ではないかと思います。

今のお仕事は激務であると思いますが、人の為、地域のためにと、とても遣り甲斐のある仕事とご判断されてUターンを決断されたことと存じます。

ですから、市長がお考えになるようなことで、企業体や、自治体、コミュニティの場所など、いろんなものが浜松にしかない魅力として実現していければ、有能な皆さんが浜松帰って、あるいは学生の皆さんが、ここ浜松で自分のやりがいの場所を探そうじゃないかというような展開になるのではないかと改めて思いました。

(山村委員)

人口というものの考え方に対して、昼間人口を重視するのか夜間人口を重視するのかおそらく両方だと思うのですが、いわゆる昼間人口ですと企業、魅力的な働く場所があるかどうかということになりますし、夜間人口になると住みやすいとか、そういう面から捉えられると思うのですけれども、この資料とか、皆さんのご意見を伺っていて、まず若い女性が東京とか都会に出て行ったら戻って来ないというのは、いわゆる高学歴の女性が帰ってこないということだと思います。

それは例えば、1つは地域性の問題もあると思うのですけれど、この辺りというのはものづくりのまちで、現場はどちらかというとなりの社会という面があるので、そういうところにやりにくさとか、息苦しさを感じるというような話も聞いたことがあります。もし女性が戻ってきたいということを考えるなら、職種の問題も考えなくてはいけないと思います。

あと住む所を考えると、先ほど鈴木真由美委員から交通費が高いというような話が出ましたが、はっきり言って新幹線代とかすごく、東海道線も高いと思います。例えば愛知県など同じ東海道線でも、豊橋から西へ行くと急に車両がよくなります。何でそうなるかという、名鉄とか競合先があるからです。それに対してJR東海この辺りというのは競合先がないから、要は怠慢でやっているのではないかと。

結構そこで稼げる。この間池上さんの番組で見たのですが、あれは全部JR東海が補助金無しで自前でやっているということです。そんなにもうかるならもっと料金を下げた方がいいと思います。そうすればここを住む場所にして、東京とか大阪に働きに行くという選択肢も出てくると思います。

浜名湖の周辺はマリンスポーツで若者にはすごく魅力的なまちだと思うので、そういう点をアピールしていったら、人口が増えるのではないかと感じました。

(石川委員)

浜松商工会議所は工業方面なので、ものづくりそのものなのですから。2つあ

って、1つは出身地に対する意識インタビューについて、4、5年前ですが、外国の方にアンケートをとってインタビューをとると、これと全く一緒の結果となりました。

外国の方が言ってくれたのは、浜松へ来て若いうちは全然面白くない。遊ぶ所もない、車がないと何もできない、だから関東、関西、東京の方が良い。だけどその方が結婚して、浜松の方と結婚された方もいるので戻って住むと、こんなに住みやすい所はないという事でした。

さっきウェルビーイングの調査もあったのですけれど、最初に言われるのは安全・安心であると。気候の話もありながらも安全・安心な所で、本当にここはいい所で、何でもそろっているというのはいいし住みやすいまちで、家族で住むには最高のまちだということ saying してくれたというのは全く一緒なので、外国の方であろうが日本の方であろうが、みんな同じことを思っていると思いながら聞いていたので、これは浜松の誇りだと思います。

さっき秋元委員も言われたように、住みやすいですが、それが目立つかという目立っていないくて、住みやすく最高だ、だけどそれでは浜松に住みたいと思えないというか、住みやすさが分からない。つながるとすれば、浜松はここがいいよというのを打ち出していく必要があるのではないか。自信を持って良い、住みやすいまちということは、間違いのないと思うので、そういう思いで聞いていました。

もう1つ、製造業の女性の話ですけど、アンケートでそこまで読み取っていいかわかりませんが、女性が戻らない、学生の年代から女性の人数が減るとするのは、学生で減って、男性だとリターンで帰って来る。やはり長男であるとか、男性は帰って来るのですけれど、女性が戻らない理由というは何かというのがわかりません。大学で外へ出ても戻って来る男性と、戻って来ない女性がいて、それは働き口がないということ saying しているのか、女性は事務系を求めているけれど、そういう職場が少ないということ saying しているのか、そこはまだまだヒアリングなどしながらやっていくべきところだろうと思いました。

かといって、製造業も事務職がないかという、ないわけではないですけど、求めるのは工学系になってくるので、必然的に男性も多くなってきます。ただ、今は男性も全然入らないので、男性、女性関係なく探しているというのが事実ですし、女性が働きやすい職場を作るというのは当然やっていくので、しっかりと調べてもらうといいなと思いました。

あと先ほど笹原委員も言いました、結婚の話にもつながってくると思いながら考えていたので、女性の話を製造業だからと決めつけることもないかなと思うので、ぜひ調べてもらったらいいなということ saying 聞いておりました。

(事務局 (企画調整部長))

そのあたりも深掘りしながら進めたいと思います。

4 今後のスケジュール

(事務局から資料に基づき説明)

◆資料3：今後のスケジュールについて

(石川委員)

さっきのデータもそうだと思いますし、もっと突っ込んで調べていくとなったときに、笹原委員のコメントで、見方もいろいろあると思いますし、実際に人口を増やすものに対して何が寄与してくるのかという、データサイエンスみたいな話になってきています。

また婚姻の話も、結婚にたどり着く要因は、いったい何が効いているのかであるだとかもすごく大事だと思っていて、静岡大学や文芸大学など、いろいろ大学があるので、ぜひそういう所とデータサイエンスを使いながら、組みながら、やられてみたらいいと思います。質問の組立てもそうですけど、データそのものも、調査分析がすごく大事だと思います。まちづくりそのものがデータサイエンスでできるまちというのは、本当にいいなと思うので、そこに大学が連携しながらやっていくと良いと思います。

さっきの企業への入社への分析もできているので、製造業としてこういう業態があるとか、製造業のこういう所ならば女性は必ず帰って来るとい、少なくともデータが示してくれるところ出てくるといいます。飲食もそうだと思います。産学官でできると一番いいと思っています。

(市長)

データの分析は当然一番重要でありまして、ベースのところの分析を間違えると、間違った対策で、意味がなくなってしまうので、分析の仕方を含めて、いろいろお知恵ある方々のお力もお借りしながらやっていきたいと思っていますし、さらに突っ込んだ調査とかヒアリングとか、そういったものもさらに必要になるといっていますので、より深掘りをしていきたいと思っています。

(石川委員)

前回の会議に出たときにはデータがない中で話をして、今回はデータがたくさん出ているので、あとはこれで分析かけると良いと思いました。

(大場委員)

市として今後どのような人口減少に歯止めをかけるための想定とか、データ分析に基づいて、どれぐらいの目標値を設けてやっていくでしょうか。

例えば、増田寛也さんら有識者グループの人口戦略会議がこの間出していましたけど、2100年に日本の人口8,000万人へ安定させるといったことを提言されてい

ました。浜松としても、合計特殊出生率の数値目標も掲げておられたように、このままで行くと2100年には人口が半減してしまうとかいうようなことで、数値目標を設定してやられていくのかどのように考えられていますか。

(市長)

われわれが持っています地方創生の総合戦略というの、自然体で行くと浜松市の人口はどこまで減るか推計を出した上で、これをそこまで行かせないために、どれぐらいの水準の人口を維持するかという、人口の目標と、それを実現しようと思うと、合計特殊出生率としてどれぐらいの数字を維持しなければいけないかといった目標と、これがキーになって全体像を組み立てています。

次期については同じような形でやっていかないと、掛け声だけは人口減少社会からの転換と言いつつ、具体的にどこまでやらなければいけないかというのが明らかにならないということが出てきてしまいますので、ベースとなる一番基本的な目標については、しっかり数値的なものを出さなければいけないと思っています。あとは、もともと地方創生の議論が始まったときは、地方消滅と当時は言っていましたけれども、地方消滅を何で計るかという、若年層の女性の数で計っていました。子どもを産み育てる適齢期の女性がいなくなると、その地域は消滅するという論理立てでやっていたのですけれども、目標を立て、今回人口ビジョンなどを組み立てていくにあたって前回と少し違ってきているのは、外国人の社会増減の動向をどれだけ見込むかというようなところとかもあったりするので、そういった前回とも様子が変わっていて、でもこれからのことを考えたときに、ここがポイントになるという部分は、新しく数値目標のような形で入れていくということもありうるかもしれませんし、今後検討をさせていただきます。

(笹原委員)

今、合計特殊出生率の低下だけでなく、若者の結婚離れや恋愛離れというのを非常に顕著な現象だと言われていまして、私は今年卒業論文でそういう学生の指導をして、静岡大学の中での調査ですけれども、やはりそういう傾向は全国だけでなくどこでも起こっています。

一方で、マッチングアプリなどで出会っているというのもあります。ただ、私は社会学が専門なのですが、結婚したくない人や結婚しない人に結婚させるのはまず無理なので、むしろ結婚して子どもを産み育てる人たちが浜松を選んでくれるという方がリアリティがあり、そうするとあそこは住みやすく子どもを育てやすいという、先ほどのアンケートにあったようなところで、転勤族で浜松にいらっしゃる方が多くて、コロナ禍で戻らずに、浜松にそのままいらっしゃる方々も相当数いらっしゃるし、そういう意味での転入層というものもあると思うので、結婚をしてもらうというよりは、むしろ子どもを産み育てる人たちに魅力をアピールする方がおそらく現実的だと思います。各市町が合計特殊出生率の目標

を立てるのですけれど、実は根拠がなくて、おっしゃったように女性が増えたとして、そのときにこの女性たちがこのくらい子どもを産めば、これくらいの合計特殊出生率になりますといったものなので、ほぼ予測しているより低くなっているというのが各市町の状況だと思います。

確かに数値目標を立てて達成したい気持ちは分かりますが、市の財政と違って、合計特殊出生率や婚姻率については、当事者は若者なので、そういう立て方よりは今の動向の中でできることを探る方がリアリティがあるのではないかと思います。

(市長)

たぶん結婚されている男女から生まれる子どもの数というのは、あまり低下しなくて推移しているはずです。

(笹原委員)

いや、やはり低下しています。

(市長)

若干はしていますけど、それほど大きくは減っていないので、やはり結婚されれば子どもは生まれてくるという状況は続いていると思います。ですので、結婚されて子育ての世代を浜松に呼び込むというのも、1つ重要な要素だと思っています。

ただ、一方で生涯未婚率がコロナを経て急激に上がっているというのが、全国的な傾向としてありまして、そもそも人と人の接触を制限していたせいなのかも知れませんが、これを少なくとも元の水準ぐらいまでは戻さないと、そもそも結婚しないから当然子どもは生まれてこないという状態が起こってくるのだらうと思いますので、やはりこの未婚率も1つ重要なターゲットとして捉えて、対策、政策を打っていかねばいけないだらうというふうには思っています。目先は確かにおっしゃるとおり、結婚されて子育て世代を誘致することが重要だと思います。

5 意見交換

(市長)

改めましてということで申し上げますと、この総合戦略推進会議のミッションとしては浜松における人口減少をどう食い止めて展開していくかということでありまして、それにあたりまして今回、さまざまなデータも整えて提供させていただいたわけではありますが、やはり自然減の大きな要因となっております少子化をどうしていくかということと、社会増減の大きな要因であります若い世代の流出をどうするかというところが、たぶん一番大きな論点になってくるのだらうと思っております。

そういった点について、本日お示しさせていただいた数字はもちろんのこと、日頃から感じておられることなども踏まえて、今後こういった対策を講じていくべきかといったことについて、ぜひともご意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いをいたします。

(秋元委員)

子どもを増やすためには、われわれ飲食店たち、商売人たちが楽しい店と、飲みに行きたい店と、出会いたいなというような場所を追求すべきと思いました。今おっしゃっていましたが、マッチングアプリで出会う確率がものすごく高く、マッチングアプリって怖いと思っていたのですが、ある一定のレベルがキープされていて、そこで条件を見て、あと顔を見て選んでいる。だからすごく合理的で簡単なシステムが出来上がってしまったんだなと思います。ですが、それだけでは寂しすぎます。やはりリアルで出会い、話をして、そしてカップルになるという本来の人の営みに立ち返ってもらえるような、マッチングアプリと融合しながらも自発的に人との出会いも築ける楽しいまちづくりにつながっていくような、そういう店をつくるのが我々の使命でもあると思いました。

(市長)

そもそもの婚姻とこの少子化対策の一番入り口の所にあります、婚姻の前段階の出会いというところでは、今はガツガツと出会いを求めてという感じでは若者たちがいないらしいので、そういった出会いの場をしっかりとサポートしてあげるといことも、重要になってきているのかと思っています。

マッチングアプリのように気軽に出会える機会みたいなものも、これもまた重要だと思えますし、一方で、行政みたいな安心感のある所がサポートしてくれての出会いみたいなものも、求めているようなところもあるような話も聞きます。加えて楽しくおいしい店があって、そこでたまたま出会うみたいなことも、当然あってほしいですけれども、それだけではなく、ある程度くっつけるみたいな力が働くと、うまく進んで行くといった話も聞きますので、まちなかのにぎわいづくりも含めて、そういった出会いの場をどうやってつくっていくのかということも、しっかり考えていかなければいけないと思います。

(鎌田委員)

少子化をどうするか、若い世代をどうするかというところに論点を絞ると、また未婚の女性というところもちろん出てくるのですが、当法人は早いうちから外国人の受入れをしています。EPAに基づき、介護福祉士候補生や留学生、さまざまな方々が私たち法人の職員として活躍してくださっている中で、やはり戦略の中にもすでに取り組みされている市のいろんな取り組みがあると思います。既に実施しているもので、それをももう一度目を通して、さらにそれを推進していける、もしくは広報していけば、既存のやられていることにも、いいものがい

っぱいあると思います。私どもが外国人を受け入れているときに、浜松市が独自でやっている外国人の日本語学習支援事業費補助金とか EPA の人たちに対する補助金交付事業、これは浜松市独自にやっていて、うちは他の都道府県にも施設がありますが、他の市の支援事業の中にはこういうものが出てこないです。つまり浜松市はそれだけ細部に目を向けて、細かな支援事業は補助企業をされています。なので、新しい総合戦略を立てていくなかでも、すでに取り組みられていることを置き去りにせずに、もう一度見直してまだまだ使えるものや、補助金があっても知らない方が多かったり、使う支援をしていないから使われないという所があるので、私たちもこういう外国人の方々を仲間に入れるというのは、必須の状況だと思っていますので、女性や未婚に限らず、多文化共生やグローバルなことにも目を向けて、取り組んで行ければいいかと思っています。

(市長)

浜松は外国人の皆さんとの共生ということでは、それこそ 1990 年の入管法改正のとき以来の三十数年にわたる積み重ねがあります。これから日本全体として見ても、今までのように単純労働力として外国人を見るのではなくて、共に地域の経済を支え、地域を支えるという観点から外国人の方と一緒にという動きになって行くと思いますので、それにあたって浜松はこれまでの積み重ねや下地があるので、そういったところもぜひより周知をすることになり伸ばしていくことを含めて、外国人の方にも選ばれるようなまちにする。それによって、外国人の方も含めて、社会増減を増の方へ持っていくということが重要だろうと思っていますので、これからもしっかりとやっていきたいと思っています。

(石川委員)

2 つ思いつきに近いので聞いていただければ。1 つはさっき婚姻について、中野市長が言った、くつつけるのと、最初に浜松いわた信用金庫の鈴木真由美委員が言われていた婚活の話なのですが、マッチングアプリがあるように婚活もあると思っていて、以前、自分も中野市長から聞いたマリッジサポーターみたいな、後押しする人みたいなものいながらとなると、そこにデータがいて思っていて、成婚率を上げるために何が要因となるかであるかとか、その職種だとか、データもいろんな集め方があると思っています。浜松は婚活について何をやっているのか見えていて、例えば自衛隊の人向けの婚活がありました。

まだまだいろいろ狙い方はたくさんあるだろうし、成婚に結び付ける要因というもの、それが例えば、大学のデータサイエンスみたいのと結びつくと婚活もかなり精度が上がるし、面白い婚活になるだろうなということを思っています。やはりデータがというところがひとつ軸になると思うし、そこに大学が入ればいいなということは同じです。

外国人の話で、うちの会社でも今度やるのですけれど、実際働いている外国人の

方に浜松のどこがよくて、どこに住みたい、なぜ浜松にいるのかなど、外国人の方を増やそうと思えば、やはり外国人の方に聞いた浜松というのはすごく大事だと思うので、さっきのアンケートも外国人の方のアンケートというのが本当にすごく大事になると思います。コミュニティがものすごくしっかりしているので、SNSで情報さえ回っていけば、外国人の方が外国人の方を呼んでくれるので、インドの方がインド人を呼ぶ、スリランカの方が呼ぶだとか、バングラデシュとか、コミュニティが強いので、ぜひ浜松に住んでいる外国人のプロジェクトみたいなものにとすると絶対いいなということはと思っています。日本人がいろいろお膳立てするよりも、いいものができると思っています。

(市長)

今度新しく入って来ていただける外国人の方向けに、もう既に浜松で活躍していただいている外国人の方を、メンターとして付けるということはやろうと思っているのですけれども、それに限らず、既にここで活躍されている外国人の皆さんの声をしっかり聞いて分析したいと思っています。

(石川委員)

ちなみに今週外国人の方とディスカッションするのですけれども、ファシリテーターは、外国人の人にやらしてもらおうと考えています。たぶんその方がいい形になるとと思っています。

(名倉委員)

ちょうど昨日、就職する大学生と議論する時間をいただいて、聞いた感想ですけれども、社会人になって仕事をするうえで自己実現したいという思いを持っている学生が多いです。そういった中で、いつも学生も輝ける場所を探しているという中で、なかなかその受け皿を、都市部と比べて持って来るとするのは非常に難しい中で、先ほど石川委員からもあったように、少しの間でもこちらに住んでいただくと、住みやすさを感じ住んでいただけたらと思います。

全国転勤している社員の方で、浜松に定住された方のお話を聞くと、転勤している中で2、3年ここにいると、住みたくなくて家買ったというような話はよく聞きます。そういった機会をどうやって作れるか自分なりに考えたときに、女性が子育ての中で、教育に非常に力を入れて、教育のためなら転勤も辞さない、移住も辞さないというような熱い思いで、子どもに対して思いがある方が多いと思います。

これは他でも聞いたのですけれども、東京でしか受けられないような、インターナショナルスクールなどの教育が、地方に行ってももう少し手ごろな水準で受けられるとなると、そちらに移住して、教育の現場はそこにして、親はリモートで週1回新幹線で通うとか、そういった手段がとれるのではないかと思います。そういった受け皿が1つあったらいいなと思います。

もう1つ、つながりを途絶えさせてはいけないという思いの中で、高校から大学に行くときのタイミングと成人式で戻ってくるタイミングで浜松市とのつながりが途絶えないような、アプリでも何でもいいですが、そういう仕掛け、仕組みを作ったら、社会人になってからも、また家族を持ったときも、何かしら常に浜松市と触れているという時間があるのではないかなと思いました。

(市長)

教育の充実は本当に、どこの地域でも重要性がいわれているわけでありまして、浜松の場合は少なくとも高校までは一通りの選択肢もあって、充実した教育が受けられる環境は、そこそこ出来ているのだろうと思っています。

ただ、先ほどからあります外国人の方々が、これからさらに入ってきていただくとなると、まだまだ足りない部分も出て来るだろうと思っていますし、そういった部分を含めて、初等・中等教育の充実も考えなくてはなりません。

そしてもう1つ何よりも、先ほどから話があります高等教育の話が圧倒的に欠けていまして、その中でもさらなる充実、高等教育についても大きな課題として考えなくてはならないだろうと思っています。

(山村委員)

今外国人の話が出てきまして、日本人の対策も大事なのですが、浜松というのはブラジル人がたくさん住んでいて、今はフィリピン人やベトナム人も多くなっていますけど、そういう素地があるというところと、あとスズキという会社がありまして、インドにすごい強みを持っています。単純労働者を入れるのではなくて高度人材を入れる。例えばインドといえば数学、英語、ITなので、そういう人たちを例えばスズキを窓口にして招き入れて、新しいIT産業など、浜松版のシリコンバレーといった所ができれば、それこそ産業が魅力のある所になると思います。

それと教育という話もありましたけど、東京のインド系のインターナショナルスクールがすごい人気だという話を聞きました。英語が学べて数学、ITに強くなるということで、神奈川県に分校のようなものができたと聞きました。もちろんインド人が来てくれるという前提ですけれども、例えばそういった学校を浜松に誘致すれば、教育という問題も解決して、また新たな産業ができる礎になるのではないかということを考えました。

(市長)

移民とか単純労働力ですと、稼げなくなった時点で捨てられてしまいます。なので、そうではなくて共に経済を支える、地域を支えるような方に来てほしいなというふうに思っています。

そういった観点からいうと高度人材でしょうし、高度人材ということになりますと、働く人本人だけではなく、家族連れでということになりますので、ご家族も

含めて生活できるような環境を整えるということも、また必要になってくるだろうというふうに思っています。

(鈴木真由美委員)

外国人労働者の件ですけど、今日の新聞でも日本の GDP が 4 位に落ちました。ドイツに抜かれているよねというところで、移民というのはこれから大切にはなると思うのですけれど、以前、私も窓口業務をやっているときには、特にスズキの関係はすごく外国人さんの口座が多かったのですけれど、比較的今は少ないように思います。

どちらかというところ、本当に安い給料で働いている方たちは、もう今や韓国とかそういった所の方が給料は高いとあって、帰られたりしている人もいますので、そういったところの面でも、先ほど市長もおっしゃいましたけど、あまり下目線で使わないというところが大切なのかなと思います。だんだん日本の力が弱くなっているというところで、そういったところも影響しているの、力がない所なのかなと思いますけど、どちらかというところ共存して、外国人とやっていけたらいいなと思います。

それから、3 大都市圏に若手が流出してしまうという短所を逆手に取った場合、観光業を徹底して強化をしていったらいいのかなと思いました。

ニューヨークタイムズなどで、毎年世界中の観光地の行きたい所の特集で、去年は盛岡、今年は山口が選ばれていましたけれども、この 2 つの都市と比べてみると浜松は、山も海も湖も城もある。こうした観光資源と新幹線と日本の高速道路を生かして、インバウンドだけではなく、国内観光客も呼び込めるように、ホテルとか周辺商業施設、そういった所は女性にとってとても魅力があるような働き方をする観光地、そういったものを推進していったらいいと思いました。

この際、浜松単独ではなくて、浜松経済圏として湖西や磐田、袋井、掛川、そういった所を含めても有効かなと思います。観光資源は自然や城だけではなくて、例えばトヨタ博物館、本田宗一郎ものづくり伝承館、光産業、楽器、うなぎパイなど、そういった見学や、マリンスポーツ、海や湖のアクティビティとしてアピールもできると思いました。

そういった所を観光業者にプランを競わせて、周辺自治体と連携して PR していけば、非製造業として若者に働く場所を提供できるのではないのかなと思っています。

(市長)

定住人口を増やすその前段階として、交流人口、関係人口を増やしていくというのは、これはまた重要な取り組みだと思っていますので、進めていかななくてはなりませんし、その交流人口拡大を支える産業も、また重要になってくると思いますので、そういう点からもまた、いろいろなことを考えていきたいと思っています。

(笹原委員)

テーマの少子化と若い世代の流出のところで発言したいのですが、先ほど話の中で、大学生の数という話が出まして、今調べていたのですが、先ほど政令指定都市の比較だと、浜松市の学生の人口は1万人ちょっとくらいですが、静岡大学で工学部と情報学部の学生数が学生だけで3,500人ぐらいいます。これは大学院生を入れると相当数なので、この1万人に占める静岡大学の割合は非常に高いのですが、その中で工学部が最も人数が多くて、2,350人ぐらいいるのですが、そのうち女子学生が1割ぐらいしかいません。

皆さんの想定どおり、工学部ですのでそもそも男性が多く、エンジニアとして地元だけではなく、もちろん日本全体に散らばっているのですが、そういう学部構成を考えると、やはりその責任というのは非常に大きいと思っていて、もう少し工学部でも女子枠を作るとか、女子学生を増やそうというふうなことがあって、地元の大学に女子学生が進学してくれるということが、ひとつは出会いの機会にもなりますし、浜松を知ってここに住みたいと思ってくれる学生が増えることに寄与するといいなと思います。

ただ、なかなか学問の枠組みとジェンダーの関係はまだ非常に根強くて、あとは地元の高校生が進学するときに、たぶん浜松で大学を選ぶといったときの選択肢は非常に少なく、さっきおっしゃっていったように、文芸大学とか、常葉大学の方が女子学生の比率は高いし、聖隷クリストファー大学ももちろん高いと思うのですが、そういった構成については、分析はする必要あるのかなとは思っています。

ただ、皆さんご存じのように今少子化なので、大学では学生の人数を増やすという状況にはなくて、むしろ学部の転換であるとか、大学としても生き残りをかけて、静岡大学はいま浜松医大と、医工情連携という形でとがらせることができないかというふうには検討しています。数として浜松の大学生を分析しようとすると、大学で困っているという状況が分かりますので、そのあたりは分析していきたいと思えますし、少しずつジェンダーの枠組みを変えないといけないですが、変わらない中では男子学生が非常に多いという構造になっているので、そこは意識する必要があるのかなと思います。

もう1つは、文芸大の浜松の比率というか、東海地域の比率のお話があったので私も調べたのですが、工学部も情報学部も県内の比率というのは20%~25%ぐらいで、東海地域というふうになると3割~4割ぐらいに増えるのですが、やはり地元比率というのは国立大学ということもあってそう高くはなくて、医学部は医師養成ということがあるので、地域枠を作って地域から人を入れているのですが、国立大学は地域枠という枠組みがないので、もう少しこちらの方でも工夫して、地域に貢献できるようなプログラムであるとか、人材養成みた

いなことを考えてもいいたらうとは思っています。

なかなかそのあたりのマッチングがうまくいかないということが、大学の入り口の問題としてはありますし、出口の問題としては、先ほどから話題となっている製造業中心という中で、女子学生の活躍の場というのが難しいものがあるなとは感じていまして、そういう意味では、浜松市でも力を入れてらっしゃると思いますが、各職場において男女平等であるとか、エクイティを高めるとか、そういった形で進めていただくことが、少し遠回りのなところはありますけれども、女子学生が地域で就職をして定着していくという中では非常に重要だと思っています。先ほどから子育てについても子育て支援が大事だということも出ていますけれども、おそらく以前に比べてだいぶ浜松市の待機児童の数は減っていると思います。それでもなかなか県内では、浜松市は預かってもらうのが難しいということで、私どもの常勤の教員でも預けられないかもしれないので、復帰が危ぶまれるという声も聞いていますので、なかなか大変な状況ではありますけれども、待機児童をはじめ学童ですか。そのあたりを充実させていただくことで、中長期的に女性が働き続けやすい、子どもを産み育てやすいまちになっていくといいなと思います。

(石川委員)

さっき名倉委員の話を聞いてふと思ったのですが、インターナショナルスクールというと教育と外国の方なので、いくつかある課題を複数統合するような策を打つというのが、効果が大きいのかなということを聞きながら思いました。秋元委員のパワーフード学会と組んで、婚活をやる場所も提供しながら婚活をすれば、おいしい食べ物と一緒にできますであるとか。

会社でもそうですけど、女性の活躍といったときに出てくるのは、ロールモデルがないということです。ロールモデルがいなければ、浜松の中で活躍している女性を、どんどん特集で持ち上げていくであるとか、それに沿って企業も頑張るだとか、例えば、スポーツと女性を組み合わせるとスポーツで活躍する女性たちをどんどん出す企業で働いている女性を出すという機会があると、スポーツも活性化されて女性も活躍できる。ぜひ複合的に解決できる策にするといいなというのを、聞きながら思いました。

(市長)

それでは、いただきましたご意見も参考にいたしまして、先ほど説明をいたしました今後のスケジュールに沿って、次期総合戦略策定に向けた検討を進めていきたいと考えております。それでは、意見交換は以上とさせていただきます、後の進行は事務局の方でお願いをいたします。

6 閉会

(事務局（企画調整部長）)

ありがとうございました。

委員の皆さんからいただきましたご指摘、ご意見をさらに踏まえまして、さらに深掘りして進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に、委員任期についてのご連絡ですけれども、皆さまには3月末までを任期に委員の委嘱をさせていただいておりますけれども、皆さんからご意見、ご指摘もいろいろいただく中で、現総合戦略について一貫したご評価をいただき、またその評価を次の総合戦略に反映していきたいと考えておりますので、ぜひ、次期計画の策定作業を進める来年度も、皆さまに委員の任期を継続していただければと考えております。改めて就任の調整等のご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、今回の会議の議事録は、後日文書にてご報告させていただきます。

それでは、これをもちまして、第2回浜松市“やらまいか”総合戦略推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。